

---

**SATO Label Gallery TruePro**

# **GalleryData**

**Sato International Pte Ltd**

**日本語版**

**Version SI-040603-05**

Copyright © 2004-2005 Sato International Pte Ltd  
All rights reserved.

# 目次

1. はじめに	1-1
1.1 GalleryData について	1-1
1.2 本マニュアルについて	1-1
1.2.1 本マニュアルで使用される規則	1-2
2. 参照	2-1
2.1 概要	2-1
2.2 起動	2-1
2.3 アクティブテーブルでの整列	2-2
2.4 ファイルメニュー	2-2
2.4.1 新規作成	2-2
2.4.2 開く	2-6
2.4.3 テキストファイルウィザード	2-7
2.4.4 エリアスを開く	2-11
2.4.5 閉じる	2-11
2.4.6 名前を付けて保存	2-11
2.4.7 終了	2-12
2.5 編集メニュー	2-12
2.5.1 切り取り	2-12
2.5.2 コピー	2-12
2.5.3 貼り付け	2-12
2.5.4 削除	2-12
2.5.5 検索 / 置換	2-13
2.6 表示メニュー	2-13
2.6.1 表示 / 編集	2-13
2.6.2 テーブル / レコード	2-14
2.6.3 ツールボックス	2-14
2.6.4 テキストツール	2-15
2.6.5 ナビゲータツール	2-15
2.7 ツールメニュー	2-15
2.7.1 入れ替え	2-15

2.7.2	マップフィールドダイアログボックス.....	2-16
2.7.3	追加.....	2-17
2.7.4	更新.....	2-18
2.7.5	空にする.....	2-19
2.7.6	バック.....	2-19
2.7.7	レポート.....	2-19
2.7.8	その他の SATO Label Gallery TruePro プログラム.....	2-20
2.8	オプションメニュー.....	2-20
2.8.1	再構築.....	2-20
2.8.2	インデックス.....	2-20
2.8.3	フォント.....	2-21
2.9	ウィンドウメニュー.....	2-21
2.9.1	カスケード.....	2-21
2.9.2	タイル.....	2-21
2.9.3	アイコンの整列.....	2-21
2.9.4	すべて最小化.....	2-21
2.9.5	すべて閉じる.....	2-22
2.9.6	開いているテーブルの一覧.....	2-22
2.10	ヘルプ.....	2-22
2.10.1	内容.....	2-22
2.10.2	Label Gallery on the web.....	2-22
2.10.3	バージョン情報.....	2-22
2.10.4	使用できないヘルプトピック.....	2-22
3.	その他.....	3-1
3.1	コマンドラインのコマンド.....	3-1

# 1. はじめに

---

## 1.1 GalleryData について

GalleryData は Label Gallery ファミリーを構成する製品のひとつで、ラベルのデザインや発行のための新世代のプログラムツールです。GalleryData は、データベースの管理を目的とした簡単なプログラムです。プログラムを使うと、テーブルの構築、構造の変更、インデックスの更新、データの自動入力や自動削除が可能になります。

本プログラムは、Paradox、dBase、Access および ASCII タイプのテーブルをサポートします。ODBC または BDE インターフェースを使って、他のデータベースを利用することもできます。

GalleryData は、標準の 32 ビット Windows アプリケーションです。

---

## 1.2 本マニュアルについて

ユーザガイドは、以下の 3 章で構成されています。

- インストール
- はじめに
- 技術文書

### *はじめに*

この章は、本プログラムのコマンドに関する知識を確認したいユーザを対象に、GalleryData のコマンドを紹介しています。

### *技術文書*

この章では、GalleryData プログラムを使ってできる様々な応用、パラメータの確認および記述ファイルの説明が紹介されます。

## サンプル

### GalleryData 利用方法のサンプル

#### 1.2.1 本マニュアルで使用される規則

太字で表示されるテキストは、メニューやボタンなどのクリックが可能なアイテムの名前を表します (OK ボタンなど)。

斜体で表示されるテキストは、オプションや確認アクションを表します (*読み取り専用* など)。

括弧で囲まれたテキストは、PC キーボードのキーを表します (<Enter> など)。

変数は[variable-a]のように角括弧で括られます。

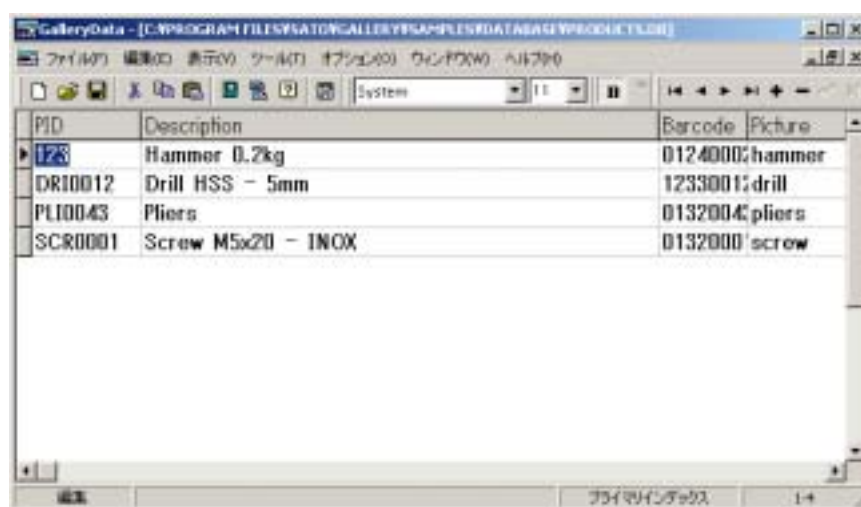
## 2. 参照

### 2.1 概要

この章では、GalleryData プログラムの起動方法、アクティブテーブルでのデータ整列方法、およびプログラムコマンドの表示方法について説明します。

### 2.2 起動

プログラムのアイコンをダブルクリックすると、GalleryData プログラムが起動します。*プロパティ* ダイアログボックスにはコマンドラインを追加できます。コマンドラインを使用して特定のアクションを実行できます(技術文書の章でコマンドラインのセットアップを参照してください)。プログラムを再び起動すると、前回開かれていたデータベースが自動的にロードされます。



GalleryData のメインウィンドウ

## 2.3 アクティブテーブルでの整列

アクティブテーブルのデータを整列できるのは、テーブルが整列状態にあるときに限ります( **表示 / 編集** コマンドを参照してください)。ドキュメントの状態はステータスラインに表示されます。カーソルキーを使うと、テーブル内のフィールドの間を移動することができます。アクティブなフィールドはシェードされています。

必要なテキストを書き込むだけでデータを変更できます。

キーボードショートカット<CTRL> + <Delete>を押すと、すべてのレコードを削除することができます。

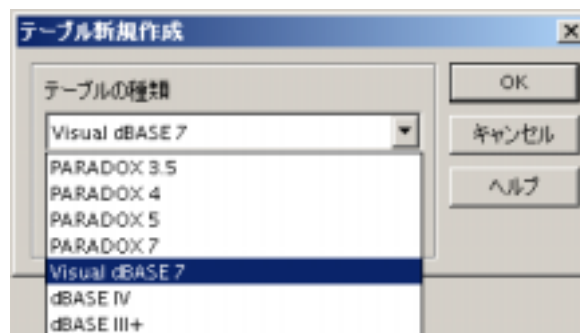
最終フィールドで <INSERT> キーを使うか<ARROW DOWN>キーを押すと、フィールドが1行挿入されます。

## 2.4 ファイルメニュー

### 2.4.1 新規作成

新規の無題テーブルを開きます。

このコマンドをクリックすると、**テーブルの種類** ダイアログボックスが開きます。ここで好きなテーブルの種類を選択できます。

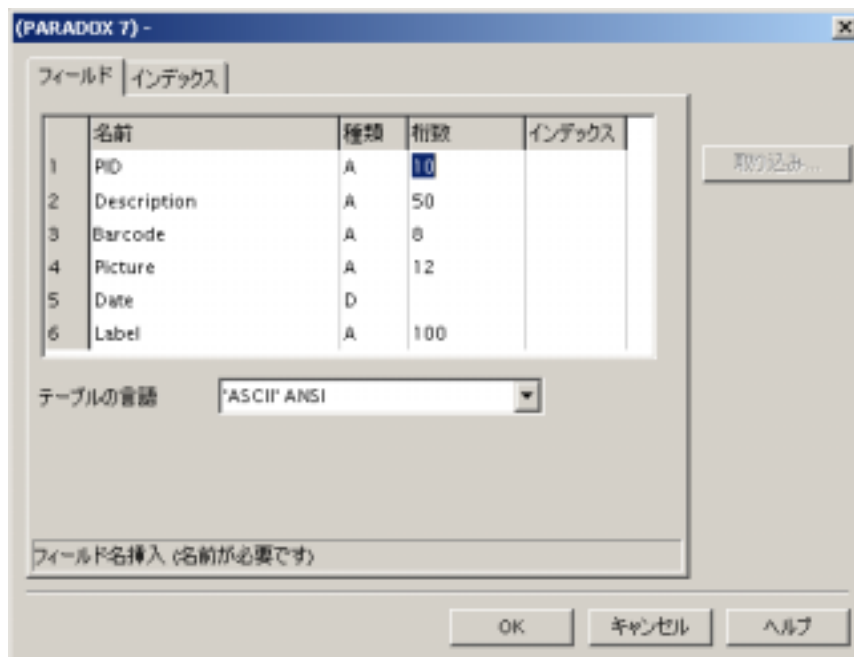


テーブルの種類 ダイアログボックス

サポートされるテーブルの種類は以下のとおりです。

- Paradox 3.5、4、5、7
- Visual dBase 7
- dBase IV、dBase III+

## フィールドタブ



テーブル新規作成 ダイアログボックス フィールドタブ

各フィールドに、名前、種類、桁数およびインデックスを入力する必要があります。

フィールドの**名前**は、Paradox/DBASE テーブルで有効である命名規則に従う必要があります。

フィールドの種類は、利用可能な種類に対応している必要があります。

- A または C 英数字フィールド
- N 浮動小数
- S 32768 ~ 32767 の範囲内の整数
- I 長整数 Paradox 長整数フィールドは、範囲が -2147483648 ~ 2147483647 (±2 の 31 乗) の 32 ビット符号付整数で、完全精度の(分数でない)自然数を含みます。長整数フィールドの格納には、短いフィールドより多くのスペースが必要です。
- L ブール値(真、偽)
- D 日付
- T 時間
- @ - タイムスタンプ

**種類** フィールドで右クリックするか、または Space キーを押すと、種類のメニューが表示されます。ここで好きなデータの種類が選択できます。

テーブルの**インデックス** フィールドは、プライマリインデックスの定義で使用されます。基本キーには、レコードの先頭フィールドと合わせて連続するフィールドだけを含むことができます。**インデックスフィールド** をダブルクリックするか、または<space>を押すと、フィールドのインデックスの選択が切り替わります。dBASE テーブルでは、**インデックス** フィールドが **Dec** フィールドに変わり、数値フィールドの小数点以下の桁数を指定することができます。

**テーブルの言語** オプションでは、テーブルに使用される言語ドライバを選択します。デフォルト言語ドライバは、BDE アドミニストレータに設定されています。

最終フィールドにおいて <Insert> を使用するか <Arrow down>キーを押すと、新しいフィールドが挿入されます。

<CTRL> + <Delete> キーを使うと、フィールドが削除されます。

<F2>キーを押すと、現在のフィールドを編集できます。

編集モードで<Home>キーおよび <End> キーを使用すると、レコードの先頭/最終フィールドやフィールドの先頭/最終へのナビゲーションを実行できます。

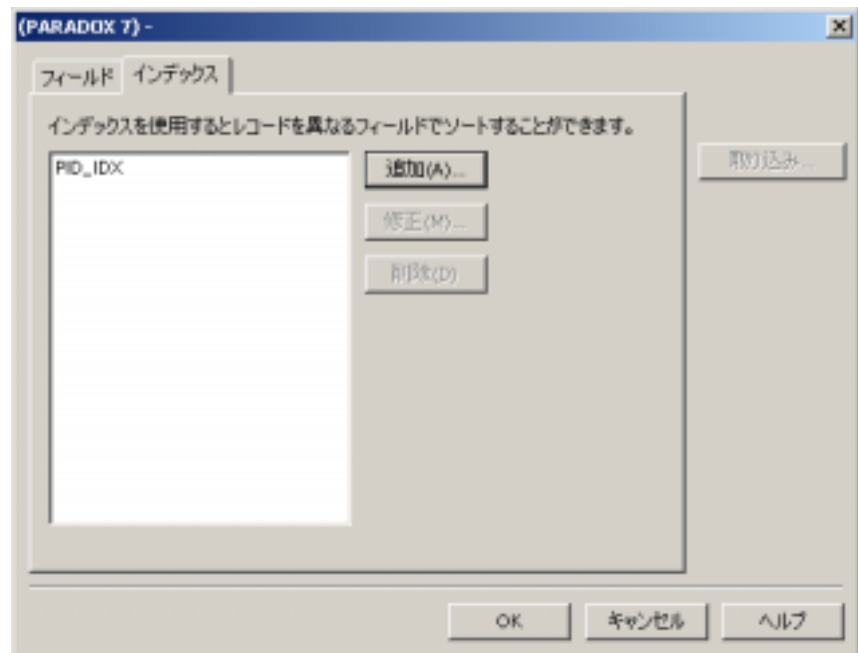
**取り込み** ボタンを押すと、既存のデータベースのデータベース構造がコピーされます。既存のテーブルから構造だけが継承されます。その結果、コピーされたデータ構造を持つ、中身が空のデータベースができます。

**名前を付けて保存** ボタンを使うと、現在のデータベースが別のファイル名で保存されます。構造とデータの両方が新しいファイルに保存されます。この機能は、ファイルメニューの「名前を付けて保存」コマンドと同じです。

### インデックスタブ

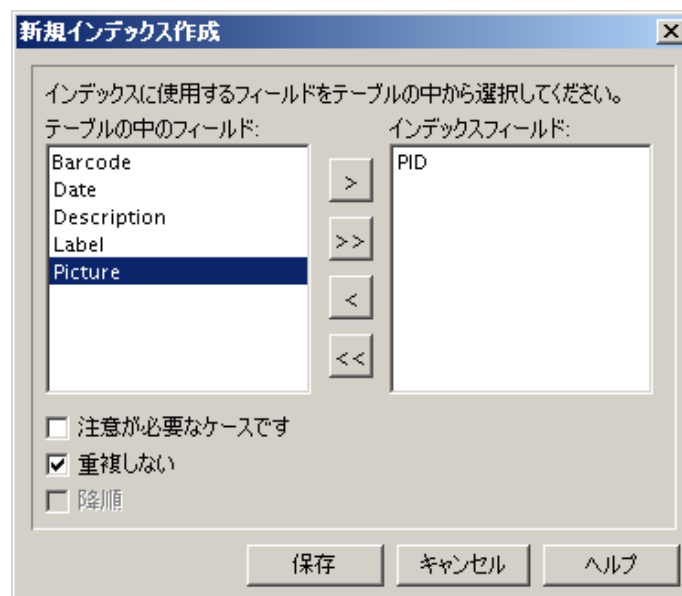
**テーブル新規作成** ダイアログボックスの**インデックス** タブでは、テーブルのインデックスを追加、または修正することができます。

Paradox 型のデータベースにインデックスされたフィールドがない場合、このタブにアクセスしようとするとき GalleryData がエラーを報告しますので注意してください。まずフィールドタブにプライマリインデックスを定義してから、ここでやり直してください。dBase データベースでは、この作業は必要ありません。



テーブル新規作成ダイアログボックス インデックスタブ

追加ボタンをクリックして新しいインデックスフィールドを追加したり、修正ボタンをクリックして既存のインデックスを修正したりすることができます。これにより、**インデックス修正** ダイアログボックスが開き、インデックスフィールドを設定することができます。



インデックス修正ダイアログボックス

ダイアログボックスには、テーブル内のフィールドの一覧(左側)およびインデックスフィールドの一覧(右側)があります。インデックスを作成したいフィールドを選択して、> ボタンをクリックします。フィールド名が、インデ

クスフィールドのメモボックスに移されます。下に記載されている追加オプションを設定すると、選択したフィールドのインデックスを作成できます。

重複しないインデックスを作成するには、**重複しない** をチェックします。つまり、データベース全体で、このフィールドの値が同じレコードはなくなります。フィールドの値は、重複することができません。

**大文字・小文字を区別する** をチェックすると、大文字と小文字を区別したインデックスが作成されます。このオプションが有効になっていると、"Mary"、"MARY"、"MaRy"または"mary"はすべて異なるフィールド値になります。

**降順** をチェックすると、インデックスが降順で作成されます。データベースフィールドの一部でインデックスを使用している場合、デフォルトの設定では、値を昇順で並べます。逆に降順にしたい場合に、このオプションを選択します。

インデックスの生成では、フィールドを1つだけ使用することも、複数使用して結合インデックスを作成することもできます。

入力したインデックス名が他のインデックスと異なる場合、プログラムによって新しいインデックスが作成されます。**保存** ボタンをクリックすると、現在のインデックスに加えた変更がすべて保存されます。

#### **Paradox テーブルでの注意点**

セカンダリインデックスをデザインするためには、テーブルにプライマリインデックスが定義されている必要があります。いずれか 1 つのフィールドがプライマリインデックスとして設定されている必要があります。

インデックスにフィールドが 1 つだけ選択されていて、大文字/小文字の区別がチェックされている場合、そのフィールドの名前がインデックス名として使用されます。この機能を使うと、ユーザはテーブルの 1 つのフィールドに大文字/小文字を区別するインデックスと、区別しないインデックスの両方を作成できるようになります。

#### **dBase テーブルでの注意点**

dBase テーブルでは、単一フィールドのインデックスのみが認められています。

### 2.4.2 開く

前回保存したテーブルを開きます。このコマンドがサポートするのは、Paradox、ASCII、dBase および MS Access タイプのファイルだけです。ダイアログボックスの外観は、標準の Windows アプリケーションでドキュメントを開く場合のダイアログボックスと同じです。

ファイルの種類に MS Access を選択すると、追加のダイアログボックスが表示され、MS Access データベース内の適切なテーブルを選択できます。

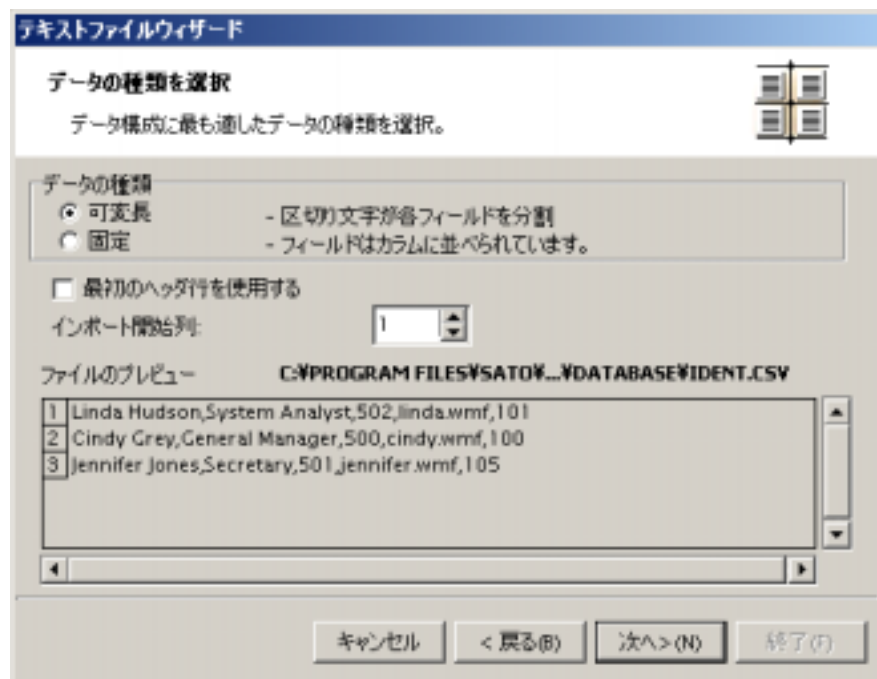
フォーマット済みのテキストファイル(.TXT)やカンマ区切り形式ファイル(.CSV)を新たに開く場合、テキストファイルウィザードを使ってファイルの構造を容易に定義し、GalleryData に値を表示することができます。設定は次回のために保存されるので、テキストファイルの構造の定義が必要なのは、1 回だけです。

### 2.4.3 テキストファイルウィザード

入力したデータベースファイルがプレーン ASCII テキストファイルまたはフォーマット済み CSV (コンマ区切り)形式の場合、テキストファイルウィザードが開始されます。案内に従って、すばやく簡単にテキストデータを取得することができます。実際のデータベースとテキストファイルの主な相違点は、データ構造情報にあります。データベースには、フィールドの全情報(名前、データ形式、桁数)が含まれるため、そのまま GalleryData で使用することができます。一方、テキストファイルには、こうした情報が保存されていないため、GalleryData にデータのエンコード方法を告げる必要があります。

#### *データ種類の選択*

テキストファイルを使用する前に、データ構造を事前に定義しておく必要があります。フィールドは特定の区切り文字(タブ、セミコロン、カンマまたはユーザ定義の区切り文字)で区切られた可変長にするか、固定長にすることができます。



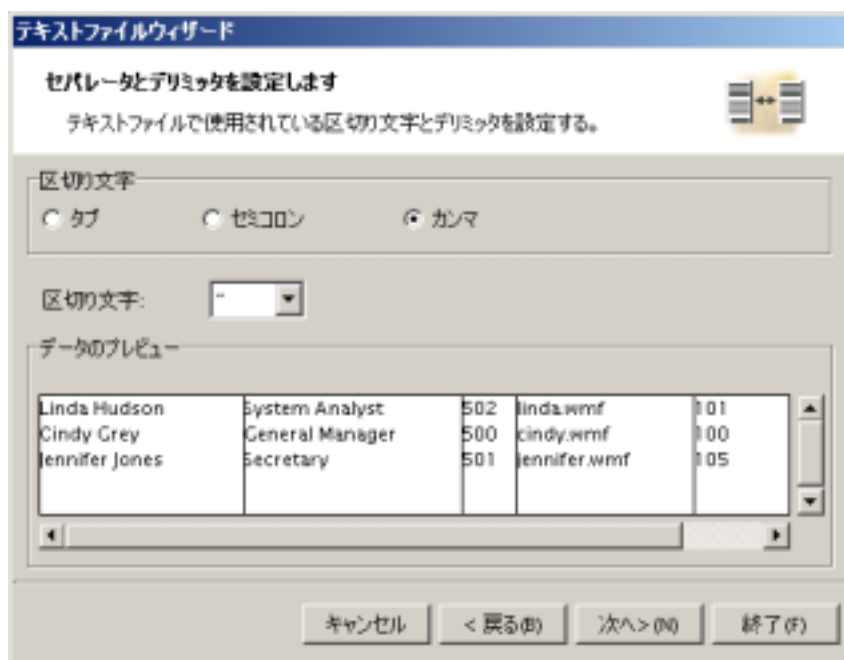
データベースウィザード データの種類を選択

データフィールドがある特殊文字で区切られていることがわかっている場合は、**可変長**を選択します。データがどのように構成されているかははっきりわからないときには、ダイアログボックスの下部にあるファイルのプレビューが役に立ちます。

データフィールドがいつも同じ文字数であることがわかっている場合は、**固定**を選択します。

オプションファイルの一番上にインポートしたくない行がある場合、**インポート開始列**のオプションが便利です。このオプションが最も効果的なのは、実際のデータフィールドの一番上にあるヘッダがテキストファイルに含まれているような状況です。

## フィールドの設定

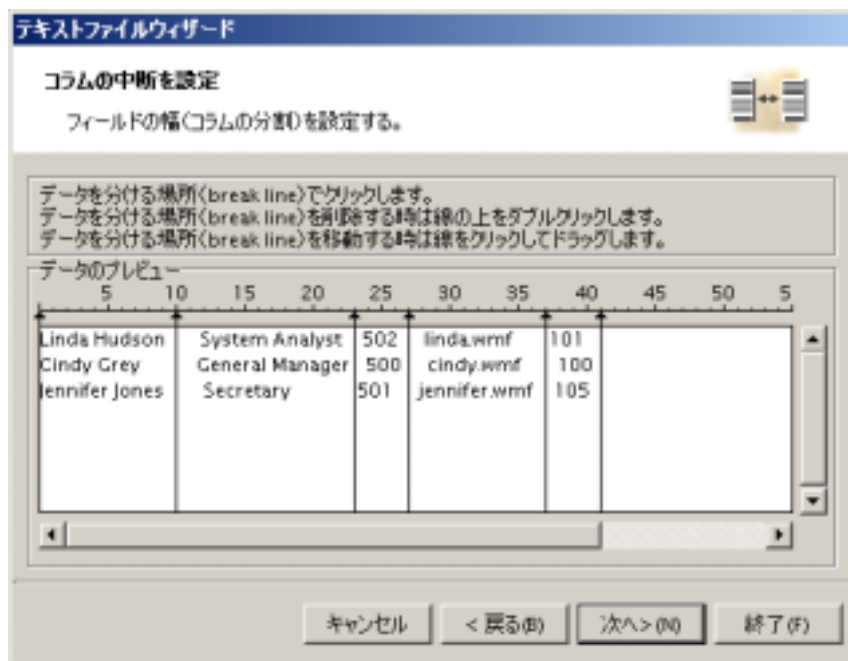


データベースウィザード 区切り文字とデリミタの設定

テキストファイルウィザードの第 2 ステップでは、テキストファイルにフィールドを設定します。前のステップで **可変長** を選択した場合、ここで適切な区切り文字を選択します。テキストファイルでよく使用される区切り文字は、あらかじめ定義されています。ただし、他の区切り文字が必要な場合には、カスタム定義の区切り文字を使用するオプションがあります。

テキストフィールド自体に区切り文字が使用されている場合には、**デリミタ** 文字を使用することもできます。このようなフィールドを含めるには、デリミタを使用する必要があります。2 つのデリミタに囲まれたテキストは、フィールド区切り文字が含まれていても、1 つのフィールドと見なされます。

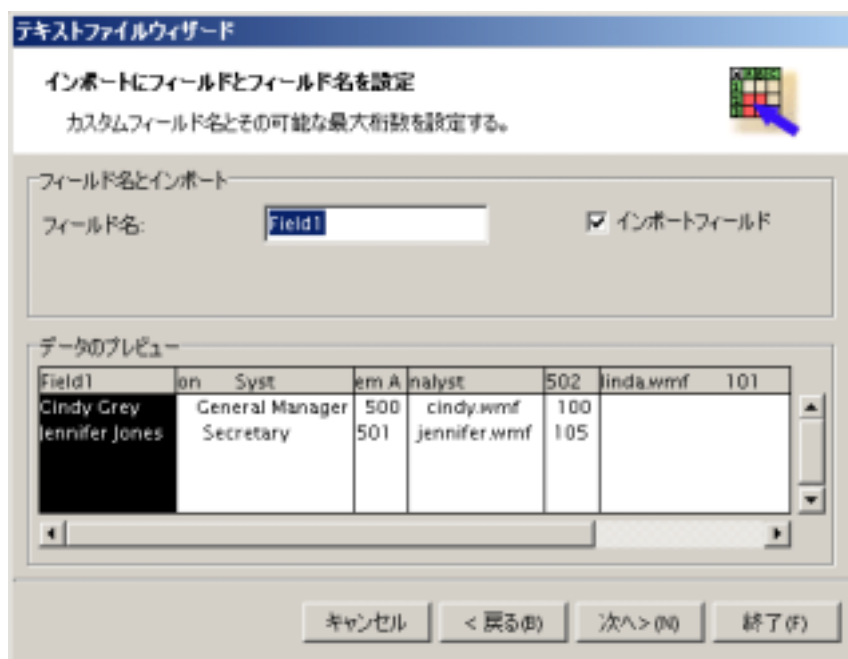
ダイアログボックス下部にあるデータプレビューを使うと、選択した区切り文字が正しいものかどうかわかります。区切り文字が有効であれば、フィールドは縦のラインで区切られます。



データベースウィザード コラムの中断を設定

データを固定幅フォーマットにした場合、ウィザードの第 2 ステップは少し異なってきます。フィールドの区切りに文字を選択する代わりに、フィールド幅を定義する必要があります。ウィザードにより、可能な限り簡単になります。マウスを使って、フィールドの開始位置に縦のラインを描きます。ラインが新しいフィールドの開始位置を示します。

### フィールドのフォーマット



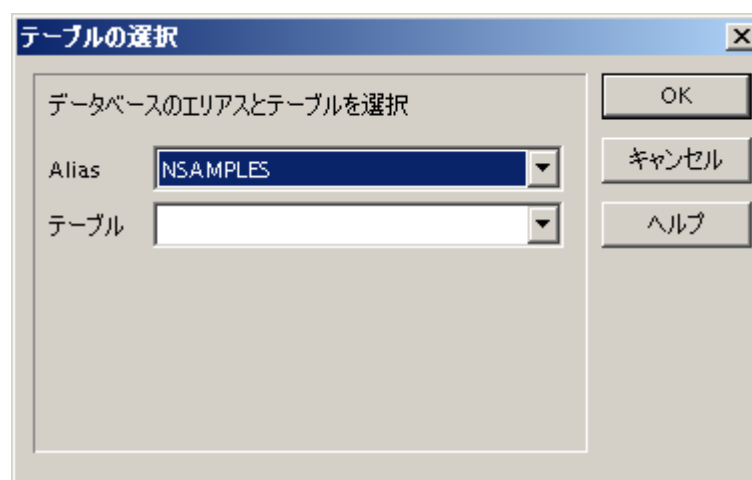
データベースウィザード-フィールドのフォーマット

ウィザードのこのステップでは、必要に応じてフィールドの名前と桁数を見直して、修正することができます。多くの場合、親しみやすいフィールド名を使うことになるので、Label Gallery でさらに容易に区別ができるようになります。

テキストファイルウィザードが終わったら、使用したテキストファイルの構造情報は、.SCH (Scheme File)の拡張子が付いた別のファイルに保存されます。同じテキストファイルを別のラベルで再度使用すると、構造を構築する手間を省くことができます。SCH ファイルが自動的に使用され、テキストファイルウィザードは完全にスキップされます。

#### 2.4.4 エリアスを開く

BDE マネジャまたは ODBC マネジャのいずれかで定義したエリアスからデータベースを開きます。



テーブルの選択ダイアログボックス

まずエリアス名、続いてテーブル名を選択します。

OK をクリックすると、選択したテーブルが GalleryData で開きます。

#### 2.4.5 閉じる

現在選択されているデータベースファイルを閉じます。

#### 2.4.6 名前を付けて保存

アクティブなデータベースファイルを新規ファイルに保存します。新たなファイル形式を指定することもできます。データベースは、指定された形式に変換されます。

### 2.4.7 終了

GalleryData アプリケーションを終了して、現在開いているデータベースファイルをすべて閉じます。

---

## 2.5 編集メニュー

編集メニューには、アクティブなテーブルでデータを変更したり、修正したりするコマンドが集まっています。

これらのコマンドへのショートカットは、フィールド値を右クリックしてアクセスするコンテキストメニューからも利用できます。データベースフィールド上で右クリックするだけで、コンテキストメニューから **複数選択**(Ctrl+M) を利用できます。データベースのレコードを複数選択したり、一括削除することができます。別のアプリケーションに値をコピーするときも、この機能を使用できます。

### 2.5.1 切り取り

テーブルのアクティブフィールドから選択したテキストを切り取り、Windows のクリップボードに保存します。

### 2.5.2 コピー

テーブルのアクティブフィールドから選択したテキストをコピーして、Windows のクリップボードに保存します。

### 2.5.3 貼り付け

Windows クリップボードの内容をテーブルのアクティブフィールドに貼り付けます。

### 2.5.4 削除

テーブルのアクティブフィールドの選択を削除します。

## 2.5.5 検索 / 置換



検索 / 置換ダイアログボックス

検索 / 置換コマンドは、アクティブテーブルでレコードを検索したり、あるフィールド値を別の値に置き換えたりするときに使用します。

まず、データを検索(または置換)するフィールドを選択し、編集フィールドに検索または置換するデータをタイプ入力します。

**大文字・小文字を区別する** が有効になっている場合は、GalleryDataで大文字と小文字が区別されます。例えば、"Mary" は "mary" や "MARY" と同じとは解釈されません。

**完全一致** が有効になっている場合、検索編集フィールドの入力値がデータベースフィールドの実際の値と一致しなければなりません。例えば、"Ma"を入力しても "Mary" も "Marusha" も検索されません。

**検索** をクリックすると検索プロセスが開始され、**次へ** をクリックすると検索条件に一致する別のレコードが検索されます。

**置換** をクリックすると、最初に見つかったフィールドが、置換する値に書き換えられます。**すべて置換** をクリックすると、置換条件に一致するすべてのレコードが修正値に書き換えられます。

## 2.6 表示メニュー

### 2.6.1 表示 / 編集

このコマンドを使うと、アクティブテーブルの使い方を変更できます。テキストが編集モードのときに限り、テーブルのデータを修正することができます。データベース値はすべて黒い文字で出力されます。

表示モードを使用している場合には、テーブルへのアクセスやテーブルの変更は一切できません。データベース値はすべてグレーの文字で出力されます。

デフォルトのモードは編集モードです。ショートカットキー<F9>を使うと、2つのモードをすばやく切り替えることができます。ステータスバーの左側に、現在使用しているモードが表示されています。モード選択の他のショートカットとしては、ここでステータスバーをクリックすることもできます。

## 2.6.2 テーブル/レコード











このコマンドを選択すると、テーブルの現在の表示モードを変更することができます。レコード表示またはテーブル表示が可能です。

レコード表示で、同時に表示できるレコードは 1 つだけです。テーブル表示では、テーブルのすべてのレコードを同時に見ることができます。

## 2.6.3 ツールボックス

このコマンドを選択すると、ツールボックスを隠したり、表示したりできます。

ツールボックスは、メインウィンドウ上部にあるボタン列であり、ファイルを開く、保存する、クリップボードに切り取るなどのコマンドです。メニューからコマンドを選択する代わりに、いずれかのボタンをクリックするだけです。ツールバーのボタンは、アプリケーションの状態に応じて有効になったり、無効になったりします。

ボタン	アクション	対応するメニュー
	新規ファイル作成	ファイル / 新規作成
	ファイルを探して開く	ファイル / 開く
	ファイルを保存する	ファイル / 名前を付けて保存
	クリップボードに切り取る	編集 / 切り取り
	クリップボードにコピーする	編集 / コピー
	クリップボードから貼り付ける	編集 / 貼り付け
	テーブルのレポートを作成	ツール / レポート
	テーブル / レコード表示	表示 / テーブル/レコード
	ヘルプ	ヘルプ / 内容
	再構築	オプション / 再構築

## 2.6.4 テキストツール

このコマンドを選択すると、テキストツールを隠したり、表示したりできます。



テキストツールでは、アクティブなテーブルのテキストのフォントプロパティを変更するショートカットが提供されます。

## 2.6.5 ナビゲータツール

このコマンドを選択すると、ナビゲータツールを隠したり、表示したりできます。



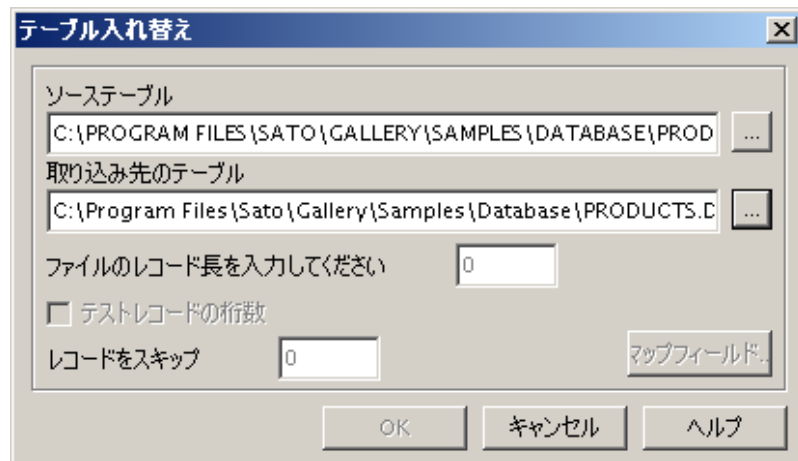
ナビゲータツールでは、アクティブなテーブル内のナビゲーションのショートカットが提供されます。

ボタン	アクション
	最初のレコードに移動する
	前のレコードに移動する
	次のレコードに移動する
	最後のレコードに移動する
	レコードを挿入する
	レコードを削除する
	レコードの変更を確認する
	レコードの変更を取り消す

## 2.7 ツールメニュー

### 2.7.1 入れ替え

ソーステーブルに、**取り込み先のテーブル**のデータを入れます。取り込み先のテーブルがない場合には、自動的に作成されます。取り込み先のテーブルがある場合には、新しい値が代入される前に、テーブルが空にされます。フィールドの種類が一致しない場合、入れ替えは中止されます。



テーブル入れ替えダイアログボックス

**ファイルのレコード長を入力してください** を利用できるのは、入力が ASCII テキストファイルのときに限ります。同じセット内で桁数の異なるレコードは、入れ替え処理中に除外されます。

**レコードをスキップ** フィールドでは、データの入れ替えを始める前に除外すべきレコード数を定義します。これにより、**ソーステーブル**の冒頭のレコードを、指定した数だけスキップすることができます。ほとんどの場合、データヘッダが移動することを回避するためにこれを使用します。この機能を実行できるのは、ソーステーブルが ASCII テキストファイルのときに限ります。

このコマンドを使うと、既存の ASCII テキストファイルを Paradox または dBase のデータベーステーブルに簡単に変換することができます。これを行うには、ソースの ASCII ファイルと、拡張子が .DB または .DBF の取り込み先のテーブルとを選択するだけです。

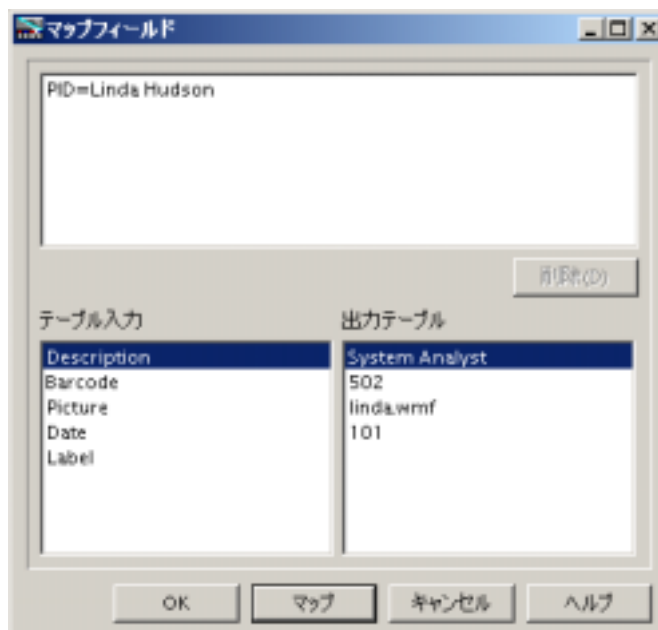
デフォルトでは、このコマンドはソーステーブルおよび入れ替え先テーブルでの位置に基づいてフィールドを照合します。つまり、ソーステーブルの最初のフィールドと入れ替え先テーブルの最初のフィールドを照合し、以下同様の処理を続けます。

デフォルトのフィールドマッピングを上書きするには、**マップフィールド** ボタンを使用します。**マップフィールド** ダイアログボックスが表示されます。

以下も参照してください。

## 2.7.2 マップフィールドダイアログボックス

このダイアログボックスでは、入力テーブルと出力テーブル間でフィールドを関連付ける方法を指定することができます。



マップフィールドダイアログボックス

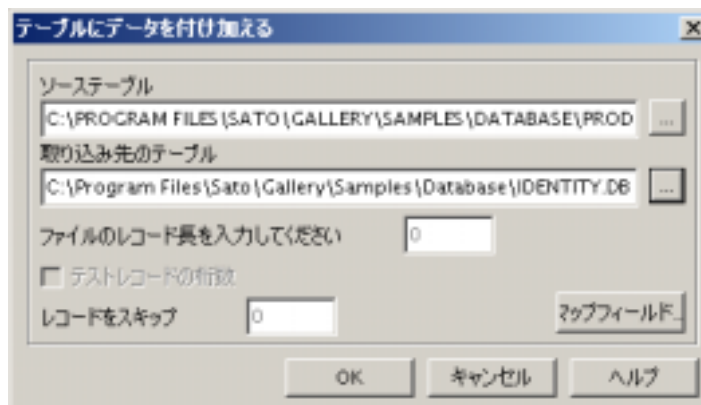
これは、入力テーブルと出力テーブルのフィールドの一覧です。フィールドをマッピングするには、両方の一覧からフィールドを 1 つずつ選択して、マップボタンを押します。

これにより、1 つ目のテーブルの最初のフィールドと 2 つ目のテーブルの最初のフィールドがマッチングされ、2 つ目のフィールドと 2 つ目のフィールドをマッチングされる、デフォルト設定が上書きされます。

### 2.7.3 追加

この機能を使用すると、入力テーブルのデータが出力テーブルの末尾に追加されます。このコマンドは、出力テーブルのデータが消去も変更もされないこと以外は、入れ替えコマンドとよく似ています。

フィールドの種類が一致しない場合、追加は中止されます。



テーブルにデータを付け加えるダイアログボックス

**ファイルのレコード長を入力してください** を利用できるのは、入力がテキストファイルのときに限ります。桁数が一致しないレコードは除外されます。

**レコードをスキップ** フィールドでは、データの入れ替えを始める前に除外すべきレコード数を定義します。これにより、**入力テーブル**の冒頭のレコードを、指定した数だけスキップすることができます。ほとんどの場合、データヘッダが移動することを回避するためにこれを使用します。この機能を実行できるのは、入力テーブルが ASCII テキストファイルのときに限ります。

デフォルトでは、この機能は入れ替え元テーブルおよび入れ替え先テーブルでの位置に基づいてフィールドを照合します。つまり、入れ替え元テーブルの最初のフィールドと入れ替え先テーブルの最初のフィールドを照合し、以下同様の処理を続けます。

デフォルトのフィールドマッピングを上書きするには、**マップフィールドボタン**を使用します。**マップフィールドダイアログボックス**が表示されます。

以下も参照してください。

## 2.7.4 更新

更新コマンドは、追加コマンドに似ており、あるテーブルのレコードを別のテーブルに追加します。相違点は、追加先テーブルに同じレコードが既に存在する場合、このレコードは追加元テーブルのレコードと一致するように更新されるという点です。同じレコードと見なされるのは、プライマリインデックスが一致するレコード同士です。従って、両方のテーブルにインデックスがある必要があります。



テーブル更新のダイアログボックス

**ファイルのレコード長を入力してください** を利用できるのは、入力がテキストファイルのときに限ります。桁数が一致しないレコードは除外されます。

**レコードをスキップ** フィールドでは、データの入れ替えを始める前に除外すべきレコード数を定義します。これにより、**ソーステーブル**の冒頭のレコードを、指定した数だけスキップすることができます。ほとんどの場合、データヘッダが移動することを回避するためにこれを使用します。この機能を実行できるのは、ソーステーブルが ASCII テキストファイルのときに限ります。

デフォルトでは、この機能はソーステーブルおよび入れ替え先テーブルでの位置に基づいてフィールドを照合します。つまり、ソーステーブルの最初のフィールドと入れ替え先テーブルの最初のフィールドを照合し、以下同様の処理を続けます。

デフォルトのフィールドマッピングを上書きするには、**マップフィールドボタン**を使用します。**マップフィールドダイアログボックス**が表示されます。

**以下も参照してください。**

### 2.7.5 空にする

このコマンドを選択すると、アクティブなテーブルのすべてのデータが消去され、失われます。そのため、このコマンドを使用するときは、注意が必要です。実行すると、データベースが空になります。データベースだけが空になり、構造は残ります。

### 2.7.6 パック

dBase ファイル形式を使用している場合、データベースからデータを消去しても、実際にはデータベースから削除されていません。つまり、削除済みという印が付くだけです。アプリケーションでは利用できなくなりますが、実体はそのままファイルに残っています。

このコマンドを使うと、この削除済みレコードがデータベースから物理的に削除され、データベースファイルがコンパクト化されます。

### 2.7.7 レポート

現在のテーブル内容をプリンタまたはタブ区切り形式のテキストファイルに出力することができます。データベースフィールドの区切り文字として、タブ文字が使用されます。このコマンドの主な用途は、データベースをプ

レーンテキストファイルにエクスポートし、本来のデータベースのファイル形式では使用できない機能で使用する予定です。

## 2.7.8 その他の SATO Label Gallery TruePro プログラム

ここでは、SATO Label Gallery TruePro の他のアプリケーションもすばやく起動することができます。

### Label Gallery

ラベルのデザインと発行を行うプログラム、**Label Plus** を起動します。

### GalleryForm

ユーザ入力フォームをカスタムデザインするプログラム、GalleryForm を起動します。

### GalleryWatch

特定イベントの発生時にラベル生成を自動的にトリガーするプログラム、GalleryWatch を起動します。

### GalleryMemMaster

プリンタメモリカードマネージャ、GalleryMemMaster を起動します。

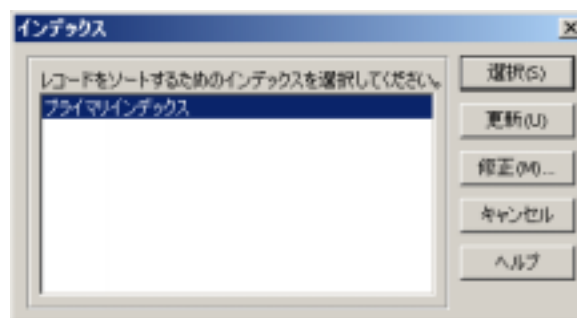
## 2.8 オプションメニュー

### 2.8.1 再構築

このコマンドを使用して、整理したいテーブルの構造を変更することができます。構造の整理については、**新規作成**コマンドのフィールドタブに記載されています。

### 2.8.2 インデックス

このコマンドを選択して、アクティブなテーブルのインデックスの選択や更新ができます。



インデックスダイアログボックス

インデックスのダイアログボックスは、アクティブなインデックスを選択したり、既存のインデックスを再構築したりするのに使用されます。

インデックスを選択するには、インデックス一覧でアイテムを 1 つだけ選択して、**選択**ボタンをクリックします。

インデックスを更新するには、インデックスの一覧でアイテムを 1 つ以上選択して、**更新**ボタンをクリックします。

**修正**ボタンをクリックすると、選択したインデックスを修正することができます。ダイアログボックスが表示され、テーブルにおいてインデックスが修正可能になります。インデックスの利用については、**新規作成**コマンドの**インデックスタブ**に記載されています。

### 2.8.3 フォント

このコマンドを選択して、現在のテーブルの表示フォントを選択します。テーブルが ASCII、Paradox または dBase 形式であれば、フォント設定はテーブルと併せて保存されます。次に同じテーブルを開くと、そのフォントが自動的に使用されています。

---

## 2.9 ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューには、タイルやカスケードのような、ウィンドウに関連するコマンドがあります。

### 2.9.1 カスケード

このコマンドを使用すると、開いているウィンドウが重ねて配置されます。アクティブなウィンドウが一番上になり、それ以外のウィンドウが下になります。

### 2.9.2 タイル

このコマンドを使用すると、開いているすべてのウィンドウが重ならずに表示されます。特定ウィンドウにある余白は、開いているファイルの数に比例します。同時に開くことができるドキュメントは、9 個だけです。

### 2.9.3 アイコンの整列

メインウィンドウの下部にウィンドウアイコンを整列します。

### 2.9.4 すべて最小化

開いているテーブルのすべてのウィンドウをアイコンに最小化します。

### 2.9.5 すべて閉じる

開いているドキュメントをすべて閉じます。ドキュメントが変更された場合には、プログラムが警告を發します。

### 2.9.6 開いているテーブルの一覧

開いているドキュメントの一覧には、開いているテーブルがすべて列挙されます。アクティブなテーブルは、メニューからテーブルを選択して変更することができます。

---

## 2.10 ヘルプ

**ヘルプ** メニューには、GalleryData に関するヘルプトピックやインタラクティブなナレッジが集められています。

### 2.10.1 内容

ヘルプに関する見出しが含まれたダイアログボックスが開きます。

### 2.10.2 Label Gallery on the web

現在使っているウェブブラウザで **Label Gallery** のウェブサイト ([www.satoworldwide.com](http://www.satoworldwide.com))を開きます。

### 2.10.3 バージョン情報

プログラムのタイトルフォト、プログラムに関する情報、およびシリアル番号を表示するダイアログボックスを開きます。

### 2.10.4 使用できないヘルプトピック

現在選択されている要求に関連するヘルプトピックは、残念ながら今のところオンラインヘルプで利用することができません。Label Gallery のヘルプは、絶えずアップグレードされています。ヘルプファイルの更新された新しいバージョンの Label Gallery ソフトウェアをインターネットからダウンロードできる可能性があります。

Label Gallery のウェブサイト <http://satoworldwide.com> にアクセスして、Label Gallery ソフトウェアのアップグレードが可能かご確認ください。

## 3. その他

---

### 3.1 コマンドラインのコマンド

GalleryData の起動時に複数のコマンドを実行する場合、追加のコマンドラインパラメータを指定することができます。

コマンドラインパラメータは、以下のとおりです。

**テーブルの入れ替え:**

`-F output_table input_table [/Saaa][/Tbbb]`

出力テーブルのレコードが入力テーブルのレコードに入れ替えられます。

**/Saaa** レコードの長さを確認するためのオプションパラメータです。  
**aaa** はレコードの長さです。

**/Tbbb** レコードをスキップするためのオプションのパラメータです。**bbb** はスキップするレコードの数です。

**テーブルの追加:**

`-A output_table input_table [/Saaa][/Tbbb]`

入力テーブルのレコードが出力テーブルに追加されます。

**/Saaa** レコードの長さを確認するためのオプションパラメータです。  
**aaa** はレコードの長さです。

**/Tbbb** レコードをスキップするためのオプションパラメータです。**bbb** はレコード長です。

### テーブルの追加と更新:

-AU output\_table input\_table [/Saaa][/Tbbb]

入力テーブルのレコードが出力テーブルに追加されます。出力テーブルに同じレコードが既に存在する場合、このレコードは更新されます。

/Saaa レコードの長さを確認するためのオプションパラメータです。aaa はレコードの長さです。

/Tbbb レコードをスキップするためのオプションパラメータです。bbb はレコード長です。

### テーブルを開く:

-D table\_name または単に table\_name

### テーブルを空にする:

-E table\_name

このコマンドは追加コマンド (-AE) と組み合わせることもできます。この場合、テーブルがまず空になり、続いて入力テーブルのレコードが追加されます。

### テーブル表示でテーブルを開く:

/G

### レコード表示でテーブルを開く:

/L

### GalleryData の終了:

/Q

### エラーをレポートしない:

/E

例:

```
GDATA.EXE -f articles.dbf import.txt /q
```

このコマンドラインを使うと、テキストファイルが dBase テーブルに変換されます。出力テーブルに存在する可能性があるインデックスは、再現されません。完了したら、GalleryData は閉じられます。